

## 国内電信級陸上特殊無線技士試験問題

(注) 解答は、答えとして正しいと判断したものを一つだけ選び、答案用紙の答欄に正しく記入（マーク）すること。

法 規 12問 30分

### 法 規

〔1〕 無線局の免許人は、無線設備の変更の工事をしようとするときは、総務省令で定める場合を除き、どうしなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 変更の工事に係る図面を添えて総務大臣に届け出る。
- 2 あらかじめ総務大臣の指示を受ける。
- 3 あらかじめ総務大臣の許可を受ける。
- 4 あらかじめ総務大臣にその旨を届け出る。

〔2〕 次の記述は、無線従事者の免許証について述べたものである。電波法施行規則の規定に照らし、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

無線従事者は、その業務に従事しているときは、免許証を  していなければならない。

- 1 携帯
- 2 通信室に掲示
- 3 無線局に保管
- 4 その無線局の免許人の事務所に保管

〔3〕 総務大臣から無線従事者がその免許を取り消されることがあるのはどの場合か。次のうちから選べ。

- 1 電波法に違反したとき。
- 2 免許証を失ったとき。
- 3 日本の国籍を有しない者となったとき。
- 4 引き続き5年以上無線設備の操作を行わなかったとき。

〔4〕 総務大臣は、無線局の発射する電波の質が総務省令で定めるものに適合していないと認めるときは、その無線局に対してどのような処分を行うことができるか。次のうちから選べ。

- 1 免許を取り消す。
- 2 空中線の撤去を命ずる。
- 3 臨時に電波の発射の停止を命ずる。
- 4 周波数又は空中線電力の指定を変更する。

〔5〕 無線局の免許がその効力を失ったときは、免許人であった者は、その免許状をどうしなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 直ちに廃棄する。
- 2 1箇月以内に総務大臣に返納する。
- 3 3箇月以内に総務大臣に返納する。
- 4 2年間保管する。

〔6〕 固定局の免許状は、掲示を困難とするものを除き、どの箇所に掲げておかなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 主たる送信装置のある場所の見やすい箇所
- 2 無線局のある事務所の見やすい箇所
- 3 通信室内の見やすい箇所
- 4 受信装置のある場所の見やすい箇所

# 国内電信級陸上特殊無線技士試験問題

## 法 規

〔7〕 次の記述は、秘密の保護について述べたものである。電波法の規定に照らし、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、 を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。

- 1 特定の相手方に対して行われる暗語による無線通信
- 2 総務省令で定める周波数を使用して行われる無線通信
- 3 総務省令で定める周波数を使用して行われる暗語による無線通信
- 4 特定の相手方に対して行われる無線通信

〔8〕 モールス無線通信において、相手局に対し通報の反復を求めようとするときは、どうしなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 反復する箇所を繰り返し送信する。
- 2 反復する箇所の次に「R P T」を送信する。
- 3 「R P T」を送信する。
- 4 「R P T」の次に反復する箇所を示す。

〔9〕 非常の場合の無線通信において、モールス無線電信により連絡を設定するための呼出しは、どのように行うか。次のうちから選べ。

- 1 呼出事項の次に「OSO」3回を送信して行う。
- 2 呼出事項の次に「OSO」2回を送信して行う。
- 3 呼出事項に「OSO」3回を前置して行う。
- 4 呼出事項に「OSO」1回を前置して行う。

〔10〕 和文のモールス無線通信において、「ラタ」を使用するのはどの場合か。次のうちから選べ。

- 1 通報のないことを通知しようとするとき。
- 2 周波数の変更を完了したとき。
- 3 通報の送信が終わるとき。
- 4 通信が終了したとき。

〔11〕 一般通信方法における無線通信の原則として無線局運用規則に定める事項に該当するものはどれか。次のうちから選べ。

- 1 無線通信における通報の送信は、試験電波を発射した後でなければ行ってはならない。
- 2 無線通信は、正確に行うものとし、通信上の誤りを知ったときは、直ちに訂正しなければならない。
- 3 無線通信を行う場合においては、略符号以外の用語を使用してはならない。
- 4 無線通信は、長時間継続して行ってはならない。

〔12〕 無線局は、自局の呼出しが他の既に行われている通信に混信を与える旨の通知を受けたときはどうしなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 直ちにその呼出しを中止する。
- 2 中止の要求があるまで呼出しを反復する。
- 3 空中線電力をなるべく小さくして注意しながら呼出しを行う。
- 4 混信の度合いが強いつきに限り、直ちにその呼出しを中止する。